参考資料 2

●容量算出方法

◆白熱灯・電熱器等抵抗負荷の場合

$$\text{発電機容量 PG(KVA)} = \text{負荷の合計(KW)} \times \frac{1}{\text{発電機の定格力率}}$$

資料提供：デンヨー㈱

（例）白熱灯 100W×6 台、電気ストーブ 500W×3 台使用した場合

負荷合計容量(P)は、P＝(100W×6＋500W×3)＝2,100W

（単相発電機の場合）

発電機容量　PG1＝2,100W×1/1.0＝2,100VA　→　2,100VA×1/1,000＝2.1KVA

単相発電機では、2.1KVA 以上の容量が必要となります。

（三相発電機の場合）

発電機容量　PG3＝2,100W×1/0.8＝2,625VA　→　2,625VA×1/1,000≒2.7KVA

三相発電機では、2.7KVA 以上の容量が必要となります。

◆誘導電動機（モーター）の場合…定常時の発電機容量

モーターは出力(KW)で表示されており、モーターに出力分の仕事をさせるための必要な電力が「入力」で、定常時運転に必要な発電機の容量です。

$$\text{入力(KW)} = \frac{\text{出力 (KW)}}{\text{モーターの効率}} \qquad \text{入力(KW)} = \frac{\text{出力 (KW)}}{\text{モーターの効率} \times \text{モーターの力率}}$$

参考：1 馬力(PS)＝0.7355KW

効率＝85%（三相誘導モータ）

力率＝0.8（三相誘導モータ）

■外箱接地（アース接続）

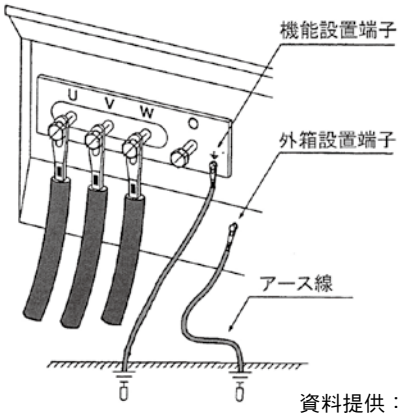
漏電保護対策のため、接地を施してください。

使用電圧 300V 以下の場合、100Ω以下（D 接地工事）

使用電圧 300V 以上の場合、10Ω以下（C 接地工事）

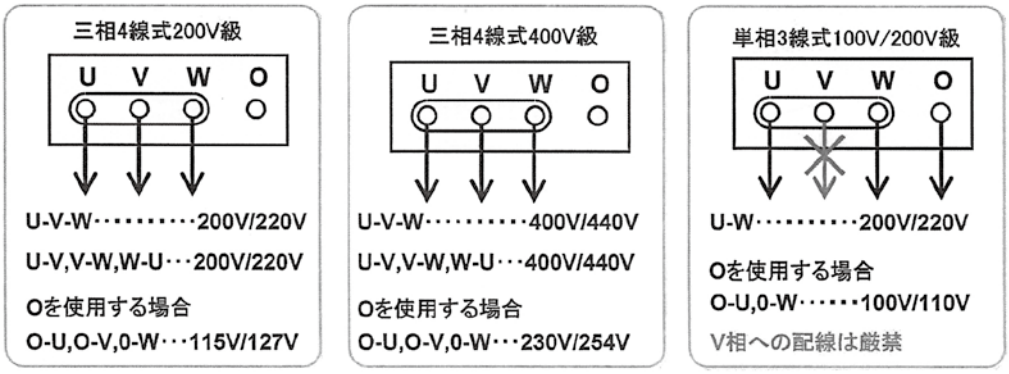
※注意：0 端子をアースにしないでください。

発電機を焼損する危険があります。



資料提供：デンヨー㈱

■負荷の接続（ケーブル接続）

負荷のケーブルを接続する時は、締め付けボルトをスパナ等で締め付けて下さい。

使用する負荷（機器）の相数（単相・三相）、電圧を確認してください。